

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	大田区立新蒲田保育園		
事業所連絡先	〒	144-0054	
	所在地	東京都大田区新蒲田1-18-16	
	TEL	03-3734-1020	
契約日	2025年	4月	1日
利用者調査票配付日(実施日)	2025年	6月	23日
利用者調査結果報告日	2025年	8月	12日
自己評価の調査票配付日	2025年	6月	23日
自己評価結果報告日	2025年	8月	12日
訪問調査日	2025年	8月	15日
評価合議日	2025年	8月	29日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念）基本理念：私たちはみんなの輝きを大きく育みます （方針）1)心身の健康と情緒の安定を図る 2)充実したあそびの環境づくりを行う 3)豊かな感性を育み、本物の体験・経験を重んじる4)自立の力・自律の心・人と関わる力を培う （目標）こどもが現在（いま）を最も良く生き、望ましい未来（あす）をつくり出す力の基礎を培う 保育目標：卒園する時にこんなこどもに育ってほしいという私たちの願い 1)元気で笑顔があふれるこども 2)やりたいあそびを自分で見つけ、満足するまで遊び込めるこども 3)いろいろなことに興味・関心を持って取り組み、自分を表現できるこども 4)自分で考え自分で行動し、人との関わりや思いやりを大切にすることも</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>今年度の重点目標は、「こどもの主体性を尊重する保育」を目標。 目標に向かって求められている職員像としては、「こどもたちが夢中になって遊べる場を保育の中につくること」、こどもたちと一緒に考え、職員自身が保育を楽しむこと、その中で、遊びの価値や意義を発信する力を身につけられるようにしています。</p> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>こども一人ひとりの視点にたった保育、保護者への説明責任、保護者との相互理解を深め信頼関係を構築、そして専門職としてのスキルの向上への使命を併せ持ちながら保育にあたって欲しいと考えています。</p>

調査対象	保育園に通っている園児111世帯130人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。		
調査方法	保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。		
利用者総数	130		
利用者家族総数(世帯)	111		
共通評価項目による調査対象者数	111		
共通評価項目による調査の有効回答者数	73		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	65.8		

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」49.3%、「満足」32.9%の計82.2%であった。自由意見では、「担任以外の先生も声掛けして下さったり、園全体で子どもを見てくれていると感じられるところ。」「園庭やホールがあり清潔な施設であること。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」などの17問中10問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	71	1	1	0
「はい」の回答は97.3%、「どちらともいえない」の回答は1.4%、「いいえ」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「園でたくさん歌や踊りを覚えてきたり、友だちや先生との関わりで社会性が芽生えていると感じます」「縦割りグループでは、年下を気遣う思いやりの心が育てていると思います」という声が寄せられている一方、「進級して制作した作品を見る機会が減った」という意見が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	69	4	0	0
「はい」の回答は94.5%、「どちらともいえない」の回答は5.5%であった。 自由意見では、「月齢に合わせて遊びの幅が広がり、年齢以上の発達や器用さが身についたと感じます」「調理実習や園外活動、めだかや野菜を育てたりいろいろなことに取り組んでいただき感謝です」という声が寄せられている一方、「散歩を増やしてほしい」という意見が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	66	5	2	0
「はい」の回答は90.4%、「どちらともいえない」の回答は6.8%、「いいえ」の回答は2.7%であった。 自由意見では、「いつも美味しくそうで沢山食べている様子」「食育など子どもの興味が湧くような活動でありがたい」という声が寄せられている一方、「季節の果物を出してほしい」という意見が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	63	5	5	0
「はい」の回答は86.3%、「どちらともいえない」の回答は6.8%、「いいえ」の回答は6.8%であった。 自由意見では、「虫や花を見つけて楽しんでいるようです」「公園や図書館に行くときにも交通ルールや図書館の方への挨拶など、勉強になっています」という声が寄せられている一方、「戸外遊びや行事を増やしてほしい。親子行事や親子遠足をしてほしい」という意見が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	52	17	3	1
「はい」の回答は71.2%、「どちらともいえない」の回答は23.3%、「いいえ」の回答は4.1%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「電話連絡ですぐに対応いただけるのでありがたいです」「担任の先生以外でも、丁寧に対応してくださってありがたいです」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	57	11	4	1
「はい」の回答は78.1%、「どちらともいえない」の回答は15.1%、「いいえ」の回答は5.5%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「感染症などの掲示がされているので注意しようとする意識づけになってます」「月一回の防災訓練は良い経験になっていると思います」という声が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	46	23	4	0
「はい」の回答は63.0%、「どちらともいえない」の回答は31.5%、「いいえ」の回答は5.5%であった。 自由意見では、「懇談会の後も仕事があるのですが、保育をしてくださるので助かります」という声が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	58	11	4	0
「はい」の回答は79.5%、「どちらともいえない」の回答は15.1%、「いいえ」の回答は5.5%であった。 自由意見では、「担任の先生が時間を作って様子を教えてください」「話しやすい雰囲気を出してくれていて相談しやすいです」という声が寄せられている一方、「気持ちよりルール優先にされている印象はあります」という意見が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	69	3	1	0
「はい」の回答は94.5%、「どちらともいえない」の回答は4.1%、「いいえ」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「常に清潔で掃除が行き届いていると感じます」「建物も新しく、掃除も行き届いていると思います」という声が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	64	7	2	0
「はい」の回答は87.7%、「どちらともいえない」の回答は9.6%、「いいえ」の回答は2.7%であった。 自由意見では、「いつも丁寧に話していただき、信頼関係が築けています」「他のクラスの先生も挨拶してくれたり雰囲気は良い」という声が寄せられている一方、「挨拶をしても一部の先生方は挨拶してくれない」という意見が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	67	4	1	1
「はい」の回答は91.8%、「どちらともいえない」の回答は5.5%、「いいえ」の回答は1.4%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。自由意見では、「初期対応が適切で、細やかに連絡や対応をして下さるので安心していきます」「ちょっとした怪我や心配なことも伝えてくれ、翌日も確認してくれるので安心」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	51	18	1	3
「はい」の回答は69.9%、「どちらともいえない」の回答は24.7%、「いいえ」の回答は1.4%、「無回答・非該当」の回答は4.1%であった。自由意見では、「トラブル発生時は時系列に沿って内容の説明、どういう注意をして頂いたなどと細かな報告をしていただいています」「しっかりと子どもたちを見てくださっているので、対応に不安や不満はありません」という声が寄せられている一方、「子どもがどうしてそのような行動をしてしまったのか、起こってしまったこと的背景をもっと汲んでほしい」という意見が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	67	4	1	1
「はい」の回答は91.8%、「どちらともいえない」の回答は5.5%、「いいえ」の回答は1.4%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。自由意見では、「イヤイヤ期の子どもにも根気よく向き合ってください、先生との信頼関係ができています」と感じます」「いつも子どもの気持ちを考えて動いて下さるのが伝わってきます」という声が寄せられている一方、「気持ちよりルール優先になっている印象があります」という意見が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	60	8	4	1
「はい」の回答は82.2%、「どちらともいえない」の回答は11.0%、「いいえ」の回答は5.5%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	61	8	3	1
「はい」の回答は83.6%、「どちらともいえない」の回答は11.0%、「いいえ」の回答は4.1%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。自由意見では、「1週間の表にして下さるのでわかりやすいです」「保護者懇談会での活動報告や、日々の活動報告を掲示でわかりやすくくださっていると感じています」という声が寄せられている一方、「保育日誌で何を伝えたいのかわかりづらい」という意見が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	58	10	5	0
「はい」の回答は79.5%、「どちらともいえない」の回答は13.7%、「いいえ」の回答は6.8%であった。自由意見では、「要望を伝えた時にすぐに対応いただけたので、とても嬉しかったです」「以前要望を伝えましたが、柔軟に対応していただきました」という声が寄せられていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	44	17	11	1
「はい」の回答は60.3%、「どちらともいえない」の回答は23.3%、「いいえ」の回答は15.1%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
		○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
		○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく
		○非該当
	カテゴリ1の講評	
	事業所の目指している理念や方針は資料配布や掲示などでわかりやすく周知されている 「私たちはみんなの輝きを大きく育みます」という基本理念に基づき、園の保育内容に関する計画となる全体的な計画で、園の保育方針や保育目標などを明示し、目指す保育を共有している。毎月行っている職員会議のレジメにも園が大切にしている理念や方針を掲載し、折りに触れることで職員の理解が深まるように取り組んでいる。また、これらの内容は登降園管理で保護者が必ず目撃する傍に掲示し、重要事項説明書や園のおしりへの記載を通じて保護者にも周知している。	
	経営層は組織体系図など役割と責任を示し、それに基づいて行動している 園の経営層の役割は、組織図及び会議内容やメンバーの書面に明記され、その内容を全職員に配布するとともに職員会議で内容を説明している。令和7年度は経営層が一新し、経営層として園全体の運営を統括する最高責任者である園長、園長をサポートし保育園全体の運営を円滑に進める副園長及び園長補佐、園全体のまとめ役として保育士の指導・育成などを副園長と連携しながら行う主任という役割を明確にしている。日々の保育のリードは副園長、主任保育士等と協働で行っており、次世代経営層を育成する場にもなっている。	
	園の階層別会議等で課題や取り組みごとの意思決定プロセスを明確にしている 重要な案件の検討や決定の手順については、園長、副園長、主任、園長補佐で行う運営会議で議題を検討し、全体会議またはリーダー会議で検討し、再度運営会議で検討、職員会議で周知するというプロセスとなっている。特に重要な決定事項は職員会議で説明するだけでなく、その内容を職員で再確認することで精度向上と理解促進に努めている。利用者に関係する案件の決定においては、年度当初の保護者会で説明している。内容や決定の時期によっては、書面や掲示で周知している。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半年・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者の意向や保育事業、地域ニーズなどを集約・分析し、質の向上に反映させている</p> <p>保護者からの意向等については、毎年、各クラスの保護者より要望書を提出してもらい把握している。各クラスの保護者からた要望等については、園内で検討し、園運営に反映している。職員の意向等については、各クラスのミーティングや職員面談、職員アンケート、職員目標シートをもとにした面談などから把握し、質の向上につなげている。地域の福祉の現状については、園長会や地域交流会、地域の会議、地域の研修などから収集し、昼礼や職員会議などで職員に伝えている。</p> <p>園の事業計画、全体的な計画を策定し、園運営が進められている</p> <p>法人及び大田区の中・長期計画をもとに、園としての事業計画、園の保育計画である全体的な計画を策定している。法人の事業計画では、法人全体の内容と大田区の委託を請けて運営している新蒲田保育園としての計画が策定されており、経営層の体制強化とともに、保育内容の充実を目指し、より安全・安心な園運営体制を構築することを明示している。園の目指す保育のベクトルを統一し、次世代育成、職員一人一人の保育力の強化に取り組んでいるため、その達成度合いが図れるよう、具体的な指標を明示して、組織的に取り組んでいくことに期待している。</p> <p>「職員へのメッセージ」として目指す保育を伝え、目標達成に向けて取り組んでいる</p> <p>園長は「職員へのメッセージ」として目指す保育を伝え、目標達成に向けて話し合い、次につながるよう取り組んでいる。今年度の重点目標として「子どもの主体性を尊重する保育」を掲げ、「子どもたちが夢中になって遊べる場を保育の中につくること」「子どもたちと一緒に考え、職員自身が保育を楽しむこと」に全職員で取り組み、その中で保育士として遊びの価値や意義を発信する力を身につけられるように質を高めている。具体的な保育内容は、すくわくプログラムの計画や、月案、年間計画(4期)などの振り返りを実施し、次の保育実践に反映している</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ3の講評

コンプライアンス(法令遵守)については全職員に周知徹底している

経営層は、職員に持って欲しい使命感として、子ども一人一人の視点にたった保育、保護者への説明責任、保護者との相互理解を深め信頼関係を構築、そして専門職としてのスキルの向上への使命を併せ持ちながら保育にあたって欲しいと考えている。そのため、新蒲田保育園としての職員基本ルールを定め、全職員に配布し保育業務にあたるものとして、守るべき法・規範等の確認をしている。また、定期的に見直しが図られている就業規則にも明示し、職員に周知している。ニュース等で不適切な保育などの報道があった場合は、必ず周知している。

子どもの人権に関する学びの機会や、関係機関との連携等、虐待防止に取り組んでいる

利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、園内研修を行い、職員が人権に対する考え方を理解したうえでグループワークを行い、更に深く考える機会を作っている。虐待が疑われる場合、写真や詳細書類に残し、大田区のこども家庭支援センターに連絡をし、指示を仰ぐ等、連携が図れるよう対応を明確にしている。園の苦情解決制度として意見・要望の受け付け担当者と相談解決責任者、第三者委員を定めているほか、大田区の福祉オンブズマンも利用することで利用者の意向の把握と迅速な対応に努めている。

透明性を高めるために、園の活動内容を開示し、実習生などの受け入れをしている

透明性を高めるため、福祉サービス第三者評価を定期的に受審している。ブログには結果の公表方法を掲載するとともに、一定期間事務所前に冊子を設置し、いつでも読めるようにしている。ボランティアや実習生の受け入れの際は、区共有の書面にて心得やお願いなどをオリエンテーションで伝えている。個人情報保護に関して説明をしたうえで、署名をもらい説明内容の承諾を得ている。同施設内に設置されている子育て広場「カムカム新蒲田」を同法人で運営していることによって連携が図られている。利用者との交流などより一層の取組の検討に期待したい。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>考えられるリスクを洗い出し、マニュアル作成や訓練などを実施している</p> <p>園の安心・安全面の強化については、防犯や防災、事故・病気発生時の対応、置き去り、アレルギー対応など、各種マニュアルを整備し、対策を講じている。防災、防犯訓練においては、訓練計画を作成し、あらゆる想定のもと訓練を行っている。訓練後は、必ず振り返りを行い、有事に備えている。事故・怪我においては、ヒヤリハットや怪我報告書、事故報告書を作成し、統計をとり、クラスの振り返りに活用している。感染症では、保護者に周知して注意喚起し、最小限に食い止められるよう取り組んでいる。</p> <p>事故などの情報を共有し再発防止・改善につなげ、事故の抑止・安全配慮に努めている</p> <p>災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している。このBCPは、毎年園長を中心に見直しを行っている。自衛消防隊組織表や災害時避難経路を職員へ配布し、各自で確認後、訓練に参加するようにしている。受診を要する事故の場合はその日のうちにそのクラス職員と副園長、主任等で振り返りを行っている。その際、区の事故報告書のフォーマットに基づき、事故の経過をもとに防止策を話し合い、記録している。昼礼時に職員間で周知し、内容によっては職員会議などでも再度共有し、再発防止に努めている。</p> <p>個人情報保護を中心に、適切な情報の運用管理に努めている</p> <p>個人情報の収集や利用、保管、廃棄については大田区の規定に準じている。職員には、職員の基本ルールに記載して伝えている。また、実習生やボランティアには事前に説明後、承諾の署名をもらっている。個人情報が記載された児童票等の文書については、鍵のかかる書庫に保管し、基本は事務所内で取り扱うことになっている。持ち出す際には管理簿に記載し、第三者が確認を行うこととなっており、情報管理が適切に運用されるよう徹底している。保護者には、入園前に個人情報に関する説明を行い、承諾の署名をもらっている。</p>		

5 職員と組織の能力向上			カテゴリ-5
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

カテゴリー5の講評

職員の人材採用と職員の経験及び育成により、適材適所の配置が進められている

保育園の正規職員の人材採用に関しては、求人サイトを活用することで随時募集をかけている。また、園長が近隣の保育士を養成している大学などを訪問し、募集活動をしている。園内人事に関しては、職員の経験と育成、子どもたちのクラスカラーなどを考慮し、配置している。職員には、担任発表時にそれぞれに対して意図を伝え、理解して保育に取り組めるようにしている。また、職員には0～2・3～5歳児と固定せず、さまざまなクラスの担任、複数担任の経験を通し、育成につながるようにしている。

専門知識や技術を職員間で共有できる園内研修に向け取り組んでいる

職員に向け、一年間の研修計画を周知し、ねらいについても説明している。また、区の研修においては職員が学びたい内容あるいは職員に学んでほしい内容かを検討し、配置している。職員自身のキャリアアップに繋がる研修においては、個々に申し込み、受講料が掛かるものについては園で負担し、積極的な学びにつなげている。園内の研修では、園の目標である「子どもが主体的に遊ぶ環境づくり」に向け、園内研修を行っている。年4期で環境設定をクラスで考え書面にし、振り返りながら次につなげ保育の質の向上に取り組んでいる。

休暇取得の推奨や健康診断の実施など、健康で働きやすい職場づくりに努めている

職員間の良好な人間関係の構築のため、会議のあり方の改善をしながら良好な関係につながるよう取り組んでいる。色々な会議の中で、自分の意見が言い合える関係を作りあげることや、年数回の職員レクリエーションを企画している。園内の体制を整えるために、4月には職員一人一人が5日間の休暇計画を立てて、休暇が取得しやすい職場づくりに取り組んでいる。健康診断は必ず年1回行い、看護師が健康状態を管理している。業務の残業については、36協定の基、申請した時間は残業代金として支払われている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもの人権を重要課題として捉え、昨年度の重点目標に、子どもの人権を尊重する保育を掲げた。昨年度の重点施策として、保育中での人権チェックや事例をもとにグループワーク研修に取り組んだ。
その結果、重点目標に掲げたことが80%達成できた。
80%達成であった原因として考えられることは、「研修やチェックリストの共有で意識が高まったが、一部自覚のない対応も見られたこと」「チーム内での声掛けなど気付きを声に出す取り組みが不十分だったこと」を明らかにしている。
こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、人権チェックリストに加えて「大田の保育」のチェックも行い保育の実践につなげる取組に発展させている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもの人権を尊重する保育を実践するために、保育中での人権チェックや事例をもとにグループワーク研修に取り組んだことは職員育成面からみても大きな成果が得られていると考える。今後も子どもの人権を尊重する保育実践に向けて、長期的な視点での取組を行っていく意向を示しており、人権チェックリストに加えて「大田の保育」のチェックも行い保育の実践につなげる取組に発展させているため成果が期待される。
一方で、PDCAサイクルの取組として組織的に取り組む際には、より具体的な内容や重点目標の設定などの表記の工夫には検討の余地がある。PDCAの有効性をより高めるために、期限や定量化した指標を明示し、より高い成果の獲得を目指すことに期待したい。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもの主体性を重要課題として捉え、昨年度の重点目標に、子どもが主体的に遊べる環境づくりを掲げた。昨年度の重点施策として、外部講師のアドバイスや研修をもとに物的環境の見直しに取り組んだ。その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。目標達成した要因としては、日々保育の振り返りを行い、職員同士が子どもの姿や遊びを見通して環境を見直し、設定が行えたことが上手く機能し、達成に繋がったことと考えられる。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、保育の人的環境の充実を図る取組に発展させている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園の重点目標として「子どもが主体的に遊ぶ環境づくり」を掲げ、外部講師のアドバイスや研修をもとに物的環境の見直しに組み込み、目標を100%達成したことは大いに評価したい。また、園の目標である「子どもが主体的に遊ぶ環境づくり」に向け、計画的に園内研修に取り組んだり、年4期で環境設定をクラスで考え書面にし、振り返りながら次につなげたりするなど、質を高めている。今後の計画策定にあたって、3～5年後のなりたい・ありたい姿や状態等の指標の設定、それを実現するための年度ごとに取り組むことなどの明確化を図り、具体的な目標を職員間で共有しながら、PDCAの有効性をより高めて進めることが期待される。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>ブログで写真を活用し子どもの活動をわかりやすく伝えている</p> <p>区のホームページと園独自に行っているブログでは、場所や規模、環境、空き状況など、入園希望者の考えにあった園が探せるような情報を提供している。園独自のブログには写真を使用してアップし、日常の保育の様子や行事、健康教育など、保育内容のイメージがしやすいように工夫している。外国籍や会話の不自由な方には、個別の見学日程を設定し、その方に寄り添い対応をしている。区取組として、手話のボランティア依頼も可能となっている。区発行の重要事項説明書は、英語・中国語版などが準備されている。</p> <p>園の見学希望者には丁寧に説明をし、園の特徴を理解してもらっている</p> <p>園見学の問い合わせには、保護者の希望に沿う形で面談を実施し個別に対応している。見学者には、園のパンフレットを配布し、保育理念や行事、一日の流れなどを説明している。また、園では子どもの遊びたいと思う環境を整えることを大切にしていることや、子どもの興味関心を育てる保育を心がけていることを伝えている。新設で広々とし日差しが入り込んで明るい園舎を見学してもらいながら、近隣に公園が多く散歩に出かける機会も多いことや、電車が見えて子どもたちが喜んでる様子など、具体的なエピソードなども添えて園の特徴を伝えている。</p> <p>園見学だけでなく、地域子育て支援の取組への参加も積極的に呼び掛けている</p> <p>地域子育て支援として「園に遊びに来ませんか」を年4回計画し、呼び掛けを行っている。「夏のスキンケア・シャボン玉で遊ぼう」「木のおもちゃで遊ぼう」「食事相談・砂場で遊ぼう」「お話し会・お母さんの制作」など、子育てのヒントを伝えたり、養育力の向上につながったりするようにテーマを検討して取り組んでいる。また、大田区の育児応援券の利用では、子どもと同じ年齢のクラスに子どもと保護者が過ごし、保育や離乳食の試食を体験でき、園の様子を知ることができる機会にもなっている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>サービスの開始にあたり、重要事項説明書に基づいて説明を行い保護者の同意を得ている</p> <p>サービスの開始にあたり、入園前に園のルールや利用方法等について記載されている重要事項説明書を保護者に配布している。さらに個別面接及び全体説明会で重要事項説明書の内容に関する説明をしている。個別面接は栄養士、看護師、保育士、園長などそれぞれの専門職ごとに行き、一人一人の子どもや家庭の状況をより詳しく把握できるようにしたり、専門性を持って保護者からの質問に答えるようにしている。また、重要事項説明書で説明したサービス内容については、同意の署名をもらい保護者の同意を得ている。</p> <p>利用開始直後の保護者の不安が解消できるよう、気持ちに寄り添うなどの配慮をしている</p> <p>特に新入園の0歳児については、入園前に慣れ保育のねらいや計画を説明し、計画表を作成して配布している。利用開始直後には、保護者も不安に感じているので、お迎えの時にその日の子どもの様子を担任が伝え、安心できるように配慮している。それでも保護者の不安が解消されない場合には、声がけをして話を聞くなど保護者の気持ちに寄り添ったり、子どもの様子などを不安に感じている場合には、園内に招き入れて園での子どもの状況を見てもらおうようにしている。</p> <p>サービス終了時には継続した支援に繋がるような配慮を行っている</p> <p>卒園する子どもには、就学先へ児童保育要録を送付したり、連携協議会に担任が出席して小学校と直接就学支援シートや個別の情報についての申し送りを行っている。転園する子どもの場合には、例えば転園先が大田区立であれば、児童票などを送付して子どもの状況を伝えるようにしている。不安な気持ちになっている保護者に対しては話を聞いたり相談に乗るなどして、就学先や転園先の生活に期待が持てるような対応を行っている。要保護家庭については、区外の場合は子ども家庭支援センターを通して、区内の場合には園長が校長に直接情報提供を行っている。</p>		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>指導計画は全体的な計画を基に、年間計画・月案・週案といった指導計画を作成している</p> <p>全体的な計画は、年齢ごとの子どもの特徴や子どもに体験してほしい事柄を踏まえ、前年度の様々な書類を参考にしながら、経営層とクラスリーダーが中心となって作成している。またその全体的な計画を基にして、「年間カリキュラム」を作成している。さらに「年間カリキュラム」を基にして「月案」、そして「週案」へと落とし込んでいる。指導計画は養護と教育の領域を意識して作成しており、書類には記録の欄を設け都度書き込みができるようにしている。5歳児については保育所保育指針の幼児期に育ってほしい10の姿を踏まえて作成をしている。</p> <p>指導計画は、見直しの時期や手順を定めて行っている</p> <p>全体的な計画については、年間カリキュラムの4期のそれぞれの振り返りの際に訂正や見直しなどで入った赤字を参考にしながら、年度末に経営層とリーダーによって見直しを行っている。月案は年間カリキュラムと照らし合わせながら、さらにその月の子ども様子などを考慮に入れ、月末に養護・教育の各領域での見直しを行っている。週案については、日々その日の振り返りを記載し、週末にその週の通しでの振り返りを記載して、翌週のねらいや配慮などで構成された週案に活用できるようにしている。</p> <p>会議や園内研修では、子どもへの理解を深めるため事例を持ち寄り話合っている</p> <p>月に2回程度各クラスで行うミーティングでは、子ども一人一人に対する理解を深めるために、それぞれのクラスでその時期に発生した事例を用いて話し合いを行っている。こうしたことで、子ども一人一人に合った保育や子どもとの関わり方などを見つけられるようにしている。また年間で計画している職員園内研修においても、事例などを用いて職員同士が意見交換を行い、より深い研修が行えるようにしている。日々の保育においては、副園長や主任がクラスをこまめに巡回することで感じた気づきを、クラス担当へアドバイスとして伝えるようにしている。</p>		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>着替えのスペースを確保するなど、子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている</p> <p>子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。例えば着替えをする時は、棚の配置を変えて着替えのスペースを確保したり、回りから見えないように窓のカーテンを閉めている。また夏の時期などはテラスで水遊びなどをすることも多いが、シャワーの回りはカーテンで囲っている。さらに3・4・5歳児クラスでは着替えは男女を分けて行っている。健康教育では、プライベートゾーンの話をして、子ども達に自分だけの大切な場所があることを教えている。また本棚にプライベートゾーンに関する絵本を常備して、子どもがいつでも確認できるようにしている。</p> <p>虐待や不適切保育を防止するための対策を講じている</p> <p>虐待などの早期発見のため、子どもや保護者の毎日の様子や言動、そして着替えの時などに子どものからだの視診を行い、いち早く気づけるように努めている。必要に応じて経過観察記録に日々の状況を記録している。また子ども家庭支援センターと情報共有を行って、虐待に対して適切な対応が取れるようにしている。保育者側の不適切保育については、定期的にセルフチェックを行ったり、保育者同士で相互評価を行って意識を高めている。さらに園内研修として講師を招き、事例を用いたグループワークを実施して、適切な保育が行われるように努めている。</p> <p>個人情報の取り扱いについては保護者に確認を行っている</p> <p>児童票や家庭状況調査票などの書類による個人情報については、鍵のかかる書庫に保管して事務所外には持ち出さないようにしている。持ち出す必要性が生じた時には、記録簿に記帳し経営層の確認印をもらうルールにしている。通常の保育運営に関わる個人情報の取り扱いについては、入園前に保護者から同意書を得ているが、それ以外の例えば子ども家庭支援センターや保健師への情報提供を行う場合には、必ず保護者に目的や内容を説明し承諾を得るようにしている。ブログなど外部の人が閲覧できるコンテンツについても、必ず保護者に確認している。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>業務の一定水準の確保のため、各種マニュアルの整備がすすめられている</p> <p>園では、経営層の入れ替わりに伴って保育の見直しとともに、マニュアルについても見直しを図り、職員の声も反映しながらマニュアルを作成している。年度当初には、職員の基本ルールとしてまとめた資料を全職員に配布し、業務の標準化を図っている。園の基本事項やマニュアル・手順書に沿ってサービスが実施されているかについては、リーダー会や全体会での情報共有時や意見交換時に確認している。保育内容については、クラス日誌、指導計画やその振り返りを通して確認している。</p> <p>保育実践面では職員相互及び経営層からの指導や助言、相談が日々行われている</p> <p>職員が分からないことの手順などは確認し、マニュアルの存在の有無を調べている。マニュアルがあれば再度副園長、主任で確認し、ないものは作成するなど業務内容の見直しとともに、わかりやすいマニュアル作りに取り組んでいる。重要事項説明書は、年度末に見直ししている。日々の子どもの様子など変更や追加する場合は、運営ミーティングや全体会で検討している。見直しが決定した場合、職員周知をしたのち、保護者へ周知している。保護者からの要望は保護者の代表を通して、年に1回保育園に提案されるため、検討して基本事項の改訂につなげている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>環境について研修を行い、子ども達が主体的に物事に取り組める環境作りに努めている</p> <p>子どもが主体的に周囲の物事に興味や関心を持てる環境にするため、「環境」に関する講師を定期的に招聘し、全職員で勉強して保育の環境について考えている。環境を大事にする一例として、子どもが遊びを楽しめるようになったと感じた際には、見守ることも大切だと考えて関わるようにしている。例えば、0・1・2歳児クラスは一人遊びを大切に、一人で遊びに没入することができる環境を大切にしている。一方3・4・5歳児クラスにおいては、友だちや保育者らと一緒に遊ぶことの楽しさを味わえる環境作りを心掛けている。</p> <p>担当制保育をすることで、子ども一人一人の状況を把握しながら保育を行っている</p> <p>0・1・2歳児クラスは担当制保育を行っている。担当制保育は決まった保育者が少人数の子どもと長期間にわたり関わり合いを持つことになるので、保育者は担当する子どもの性格、特徴、嗜好などを深く理解し、一人一人の発達段階や気持ちに合わせた質の高い保育ができるようになっている。また、食事、排泄、着替えなど子どもの日常をサポートすることで、子どもは安定した環境で生活習慣を身につけやすくなっている。園では担当制保育により、一人一人の発達状況を把握しながら個別計画を立て、クラス内で共有しながら保育を進めている。</p> <p>小学校と連携をとり、小学校教育への円滑な接続を図っている</p> <p>5歳児の小学校への連携として、「保育所児童保育要録」や入学後に配慮が必要と思われる子どもの支援や園での様子、入学後の学校生活に関する保護者の意向などの小学校へ伝えておきたいことを記入した「就学支援シート」を提出している。また2月に開催される小学校との連絡会議において、子ども一人一人の様子を入学する小学校の先生へ申し送りを行っている。また5歳児クラスの担任は保幼小連携会議に参加して、小学校に向けての援助の仕方や進め方について学んでいる。区外に転居する子どもについても、転居先の小学校との連携を行っている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時に保護者から、家庭での食事や睡眠などの状況について確認を行っている</p> <p>日々の家庭での子どもの様子などは、0・1・2歳児クラスでは連絡帳に、3・4・5歳児クラスでは健康確認カードに保護者が記載することで把握しているが、さらに登園時にも保護者から、家庭における食事や睡眠、排便、薬の服用などの状況について確認を行っている。その内容については、事務所内で共有し必要であれば昼礼時にも職員に伝えて対応できるようにしている。保護者から申し出などがある場合には「受け入れ簿」に記載し、出勤した職員が必ず確認をおこなうことで、職員間での引継ぎにおいて漏れがないようにしている。</p> <p>休息は子どもの年齢や状況に合わせて時間や空間に配慮を行っている</p> <p>0・1・2歳児クラスでは保護者が記載した連絡帳により、また3・4・5歳児クラスでは園での子どもの様子や保護者との会話などで子どもの生活リズムを把握している。午睡に関しては、年齢によって時間の設定を行っているが、特に0歳児については子ども一人一人のリズムに合わせて、午前中や夕方でも睡眠がとれるようにしている。さらに保育室には絵本コーナーやゴロゴロスペースなどゆったりと休息が取れる場所を作り、子どもの状況に合わせた対応ができるようにしている。5歳児については4月までに生活リズムが整うよう午睡時間を調整している。</p> <p>発達の状況に応じて、基本的な生活習慣が身に付くよう援助している</p> <p>年齢や発達に合わせて食事や排せつなどの基本的な生活習慣を子ども自身が獲得し自分で生活する力を育てられるようにするため、生活面での関わり方を職員間で統一し、どの職員が介助しても同じになるようにしている。またクラスミーティングなどでは職員間で子ども一人一人の発達について共有し、関わり方の工夫などを話し合っている。0・1・2歳児クラスは担当制保育にしており、食事、排泄、着替などと同じ保育者が関わることで、子ども一人一人の発達や状況が把握できるので、子どもは生活習慣を身につけやすくなっている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>とうきょうすくわくプログラムにより子どもが「自然」をテーマにした探求を行っている</p> <p>とうきょうすくわくプログラムでは今年度は「自然」を大きなテーマとして設定し取り組んでいる。さらに年齢ごとに「自然」の中からピックアップした小テーマを設定している。例えば1・2・3歳児クラスでは「虫」を小テーマにし、それぞれのクラスで実際に虫を飼うことにより、その生態などを学んでいる。4歳児クラスは「自然の色」を小テーマにしており、自然にある草花の色についての考察を行っている。5歳児クラスは「水」をテーマにして、水を使った様々な実験や考察を行い、身近な存在である「水」の神秘性や性質の新たな発見に驚いている。</p> <p>園外活動を行うことで、自然の中で五感を育てたり社会性を身に付けさせたりしている</p> <p>暖かさや寒さなどを体感したり、公園で咲いている花、その花に群がる虫などを見たり触れたりすることにより、自然を感じたり季節を感じたりすることを目的として園外活動を行っている。子ども達は園庭にはない植物や、虫を観察することで自然界の不思議さや美しさなどといった「自然」と関わる体験ができています。園は屋外活動を行うことで、見る、触る、聞く、嗅ぐなどの五感を育てること以外にも、交通ルールを知ること、公園の遊具で遊ぶことでルールを知ること、そして地域の人と触れ合うことで社会性を育てることに繋がっていると考えている。</p> <p>子どもが成長していくために、子どもの自主性や自発性を大切にしている</p> <p>園では、子どもの自主性や自発性というものは、子どもの意欲や興味を育て、子どもが自ら考え試行錯誤を重ねることで行動する力を身に付け、また最後までやり遂げる経験により自己肯定感を高めていくことができるので大切なことであり、自主性・自発性が自分の得意な能力を伸ばしたり成長ができるようになると考えている。また遊びにおいては、子どもが自主的に遊びに関わるようになる環境設定が重要であり、そのために子どもが自ら選ぶことができるような種類の玩具や遊び道具そして遊び込める場所などの設定ができるよう努めている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事に取り組む子どもの写真を盛り込んだ壁新聞を作成して、園内に掲示している</p> <p>保護者に行事に取り組む子どもの姿や頑張りを伝えられるよう、保育者が壁新聞を作成して園内に掲示している。壁新聞では、行事で行う演目などを一生懸命練習する姿や、友だち同士楽しそうに協力し合って向き合う姿などを写真やコメントで伝えている。保護者は送迎時にこの壁新聞を目にすることで、園でどのようなことが行われるのかを具体的に知ることが出来たり、行事に向かって頑張っている自分の子どもの成長する姿に感動できるようになっている。さらに壁新聞のほかにもブログやクラスだよりでも伝えて、保護者の理解を得られるようにしている。</p> <p>みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえる行事を実施している</p> <p>園ではみんなで協力し成し遂げることの喜びを味わえる行事を実施している。例えば5歳児クラスが昨年行った「お店屋さん」という行事は、どんなお店をやるのかから始めて、お店で何を作り、どんな飾りのお店にするのかなどを子ども達で話し合いながら、準備を進めている。準備の過程では、意見が衝突したり、子ども同士で温度感に違いが出たりなどしたが、みんなで協力し合いやり遂げることの喜びを味わうことができる行事になった。また下のクラスの子も達を招待し、みんなにやさしく接するなど、子どもの成長も感じられる行事となった。</p> <p>行事は行事ごとに計画書を作成し、ねらいを持って実施している</p> <p>行事を実施するにあたり、行事ごとに行事計画記録を作成して、子どもが興味や関心を持って自ら進んで取り組めるような行事になるよう努めている。当園では七夕、もちつき、豆まき、ひなまつりなどの伝統行事を行っているが、行事の意味や由来を子どもに伝え、日本の生活文化のもつ良さや楽しさを感じられるようにしている。また運動会では保護者と触れ合うことや、保護者が子どもの成長を感じてもらうことを目的に、そして「祖父母お招き会」は、普段あまり保育園とはコンタクトがない祖父母世代との交流を目的に開催している。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが安心して過ごせる環境にしている</p> <p>保育時間の長い子どもが安心し、自由に過ごせてくつろげるようなごろごろできるスペースを作っている。また2歳児室での延長保育中にも3・4・5歳児クラスの子どもの楽しめるよう延長時間に対応した玩具を用意している。各クラスの年間計画表に「長時間保育」のねらいや配慮を盛り込んでおり、さらに日々の保育は「延長番日誌」に記録を行っている。必ずしもクラス担任が延長時間にも対応しているわけではないので、その日対応する職員に、一日の子どもの様子を申し送りしている。</p> <p>延長保育で保育形態に変化がある場合でも、子どもが安心して過ごせるようにしている</p> <p>延長保育では子どもの数が少なくなるため、異年齢同士で過ごす時間となることが多いので環境に工夫している。例えば同じ部屋で過ごす中で、なるべく0・1・2歳児と3・4・5歳児は運動範囲など発達状態に差があるので過ごす場所を分けるようにして、怪我などの事故が起きないように配慮している。とりわけ0歳児クラスは同じ保育室でも場所を分けて保育を行い、落ち着いて遊べるスペースを確保している。また、職員の人数配置も各クラスの状況を把握して、適切な人員配置となるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作り配慮している	○非該当	
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当	
評価項目6の講評			
<p>食物アレルギーのある子どもには、安全・安心の中で食事ができるようにしている</p> <p>食物アレルギーのある子どもは、保護者から医師の意見書や生活管理指導書を提出してもらい、毎月の献立表をもとに、保護者と栄養士とクラス担任との三者で確認を行っている。日々の食事については、提供前に担任と栄養士でアレルギー対応食になっているかを確認し、さらに食器の色を変えて間違いが起こらないようにチェックを重ねている。クラスにおいては個別テーブルを使用し、職員が見守る中で安全・安心に食事ができるようにしている。宗教など文化の違う子どもには、献立表を基にして保護者の意向を聞きながら対応するようにしている。</p> <p>子どもの気持ちに寄り添って、子どもが楽しく落ち着いて食べられるように工夫している</p> <p>子どもが食事を落ち着いて取れるように、いつも決まった時間、決まった場所で、決まった保育者と一緒に食事をするようにしている。食べることを無理強ひせず、子どもの気持ちを優先して、子どもが食べたいと思うことを大切にしている。苦手な食材がある子どもに対しては、食育の一環として園庭で栽培している野菜に水やりや収穫を行うなどの関わりを持つことにより、野菜に関心を持ち食べる意欲へと繋がるようにしている。また例えば夏まつりでの給食は、焼きそばをバックで提供してお祭り気分楽しく食べられるようにしている。</p> <p>保護者や地域の方々との連携や協力のもとで、食への取り組みを行っている</p> <p>園で力を入れている食育への理解を得るために、園庭で栽培している野菜の世話を様子や育った実などの収穫の様子、給食の様子など食育活動の様子を写真やコメントなどで保護者に伝えている。また給食だよりを発行して、保護者の食への意識が高まるようにしている。園での食育の活動を地域の人にも知ってもらうために、園独自のブログに活動の様子などをアップして、情報を発信している。また地域の魚屋の協力を得て、秋鮭の解体ショーを行い、子どもが魚に興味を持ち、さらには楽しく給食が食べられるようにしている。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当	
評価項目7の講評			
<p>看護師が健康管理保健計画を作成して、子どもの健康管理に努めている</p> <p>看護師が健康管理保健計画を立案し、計画に則って年に数回子ども達に向けて健康教育を行っている。健康教育は虫歯予防についてや季節の感染症、プライベートゾーンの話などをテーマに絵本や模型などを使って分かりやすく伝えている。また看護師は毎日朝と夕方に各クラスを回って、子どもの状況を把握している。さらに怪我報告書を作成して、怪我が起きた状況、怪我をした原因、今後の対策などを職員間で共有している。怪我報告書は月ごとに集計し、さらにクラスごとに振り返りを行って同じような事故が起きない保育環境になるよう努めている。</p> <p>SIDSの予防のため、アプリを取り入れて人の目と合わせて厳しくチェックしている</p> <p>SIDSの予防の取り組みとして、園では0歳児の午睡時には午睡チェックサポートアプリを利用している。このアプリは子どものおなかに取り付けたボタン式センサーが体の動きを検知し、うつ伏せ寝が続いた場合や静止状態が続いた場合にアラートですぐに通知されるもので、5分おきに行う人の目での午睡チェックと合わせて、睡眠中に起きる事故の予防に努めている。保護者に対しても家庭でのSIDS事故が起きないように、入園前説明会で看護師が注意喚起を行っている。また感染症の情報などは感染症名、人数、症状などを園内に掲示している。</p> <p>看護師を2名配置するなど、医療的ケア児の受け入れに対応できるよう準備をしている</p> <p>当園は医療的ケア児受け入れ園ではないが、現在看護師2名配置をしており、今後事例が発生した場合でも対応できるよう準備している。医療的ケア児を受け入れた場合には、ケアが必要な子ども一人一人の状況にしっかりと向き合い、子どもと保護者の意向に沿えるよう、保育士や看護師のそれぞれが専門的意識を生かしながら、ケアが必要な子どもに合った環境を整えていくことを大切に、また医療的ケア児について、職員が学び、園の誰もが対応できる環境にできるよう努めている。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者会での懇親会など保護者同士が交流できる機会を設けている</p> <p>年2回行っている保護者会の中で保護者同士の懇親会の時間を設けている。この懇親会は、少人数でグループ分けを行い、園から提示されたテーマに沿ってディスカッションを行うというもので、各グループにはオブザーバーとして職員も配置されている。少人数であるため、保護者は気負わず意見を言うことができ、活発な意見交換をすることで日頃の子育ての悩みが解消されたり、共有ができるようになっていく。懇親会以外でも「保育参加」や「発表会」などの時に子ども達と関わり合いながらも、保護者同士でも一緒に楽しめる時間を作るようにしている。</p> <p>保護者の個々の事情に配慮した支援を行っている</p> <p>入園前面談において、保護者の就労状況や家庭の事情を聞いて保育時間を決めている。また家庭の状況に変化があり相談があった場合には、保護者が安心して仕事ができるようになるよう、保育時間の変更や土曜保育の利用など状況の変化に合わせた対応を行っている。さらには様々な子育て支援に関する情報を収集して、必要に応じて保護者に情報提供を行っている。園では、子育ての悩みを聞き、相談に乗ることを基本としているが、よりよい環境になるよう、場合によっては子ども家庭支援センターなどの専門機関に繋げることを行っている。</p> <p>保護者との信頼関係が深まるよう子どもの情報の共有に努めている</p> <p>子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得るため、保護者会を年に2回開催したり、個人面談を行うなどしている。また毎月「園だより」「保健だより」「給食だより」「クラスだより」を発行して、園からの連絡事項や保育にまつわるトピックスを始め、子ども達に関わる情報を伝えている。そのほかに園のブログを使ったり、メールで生活写真を公開したり、園内に壁新聞を掲示するなど様々な情報を発信している。さらには送迎時に保護者へ細やかな子どもの様子を共有して、保護者との信頼関係が深まるよう努めている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
<p>地域の子育て世代への支援活動として園でイベントを行っている</p> <p>地域の子育て世代への支援活動として「保育園に遊びに来ませんか」というイベントを行っている。このイベントは地域の未就園の子どもを対象にしており、保育園に園の子どもと一緒に遊んだり、お話しや制作などへの参加で保育園ではどんな風に過ごすのかを疑似体験できるようになっている。また、保護者向けとして園の看護師や栄養士が講師となって、子どもの食や健康の悩みに答えるイベントになっている。5歳児クラスは区内のほかの保育園の5歳児とドッジボールをしたり構成遊びをするなど保育園の垣根を超えた交流を図っている。</p> <p>図書館などの地域資源を活用して、子どもが多様な体験をする機会を確保している</p> <p>地域資源を活用して、子どもが多様な体験や交流ができるようにしている。例えば、多摩川図書館で毎月行っているお話会に5歳児が参加したり、2歳児クラスは近隣の教会でゆすらうめりの交流を行っている。また子どもの安全対策として区安全対策の部署や警察との協力による交通安全教室や防犯訓練の実施、矢口消防署の協力で職員への救急救命や消火訓練を行っている。そのほか集会施設の庭や近隣の公園を散歩で利用することで地域資源を利用しており、園外活動では公共施設でのマナーやルールを守ることも学んでいる。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル①	看護師による職員への健康指導など、研修体制を強化して職員育成がすすめられている	
内容①	保育のスキル向上のためには、日々の保育の振り返りの積み重ねが重要である考えのもと、研修体制を確立し、職員一人一人の質の向上に取り組んでいる。園内研修は、職員会議の開催と合わせて、全体で学べるように実施している。また、保育士、看護師、栄養士が互いに専門性を発揮し、連携して保育の実践や園の安心・安全に繋がるよう取り組んでいる。看護師による職員への保健指導は年間で計画され、毎月非常勤職員も含めて必ず受講できるよう開催時間や回数なども工夫して行われている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	栄養士の作成した食の計画に則り、子どもの健康を考えた食事を提供している	
内容②	園では食べることは、生きることの源であり、心と体の発達に大きく関係していることから、豊かな食の体験を積み重ねていくことで「食を営む力」が身に付けられると考えている。また子ども達が楽しくそして意欲を持って食事ができるよう努めている。栄養士を6名配置しており、そのメンバーで食に関わる年間の計画を立てている。子ども達の健康を考え、給食はごはん中心の和食の比重を多めにしている。また楽しく食事をしてもらえるように、絵本の世界の料理を再現した「絵本献立」や世界の料理をテーマにした「世界の献立」などを提供している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの心身の健康を考えた食育計画を作成し、園庭での野菜の栽培や収穫、クッキング、魚の解体ショーなどを行っている
	内容	食育は、子どもの心身の発達や人間性の形成のみならず、心身ともに健康で質の高い生活を生涯送ることに繋がると考えているため、食育計画を立てて様々な取り組みを行っている。例えば、園庭等において季節の野菜や果物を世話をしながら栽培し、収穫まで行っている。育てた野菜を献立に入れ込むことで、苦手意識のあった野菜でも食べる意欲が湧くようになってきている。またクッキングを保育に取り入れ、料理を通して食に触れる機会を作っている。さらに魚屋の協力を得て秋鮭の解体ショーを行い、子どもが食としての魚に興味を持てるようにしている。
2	タイトル	運動遊びやリズム遊びなどを行うことによって、運動能力を高められたり体感が鍛えられたりすることに加え、自己肯定感が高められている
	内容	子どもの運動能力を高めたり、体感を鍛える事を目的として運動遊びに力を入れている。運動は年齢や発達に合わせて年間計画を作成して取り組んでいる。年に数回専門の講師を呼んで、サーキット方式や鉄棒、跳び箱、マット運動等の運動遊びを行っている。それ以外にもリズム遊びなどで、毎日体を動かす時間を設けている。子ども達は運動遊びやリズム遊びなど身体を動かすことをすることでさらに難しい事へ挑戦しようとするチャレンジ精神の芽生えや、やることによって得られる達成感の獲得、そして自己肯定感を高めることができるようになってきている。
3	タイトル	職員の専門性向上とキャリア形成を支える多角的な研修の仕組みを整え、実践に活かせる学びを推進している
	内容	園が目指す保育の実現に向け、外部講師による研修、区の研修、園内研修、看護師による保健指導など、職員が専門的知識や技術のさらなる向上を図り、保育に活かすため研修に取り組んでいる。園内研修は、担当者が職員会議の開催と合わせて計画しており、全体で学べるように実施している。また、当該園は栄養士及び看護師が複数人在籍し、保育士と連携して子どもへのきめ細やかな健康教育や豊かな食育活動など、それぞれの専門性を活かした保育実践につなげ、子どもの健やかな成長を育んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	「ひやっ」とする案件の収集活動をより一層行い、リスクマネジメントのさらなる強化に期待したい
	内容	園は防災計画などを整え、子どもたちの安心・安全を守る対応を進め、避難訓練や防災訓練、不審者対応などを行っている。重大な事故を未然に防ぐために、事故・怪我においてはヒヤリハットや事故報告書を作成し、統計をとりクラスの振り返りに活用している。リスクマネジメントの取組として例えば、「ひやっ」とする案件の収集活動をより一層行うことで、リスク対策の優先順位を多岐の視点から見出してはどうか。そして優先順位に基づき対策を作り、検証しながら、効果が十分にでなければ再度見直しを図るリスクアセスメントに期待したい。
2	タイトル	人材育成に力を入れていることから、今後は段階的なスキルアップに対する理解を深め、職員のさらなる意欲向上につながることに期待したい
	内容	職員の質の向上を図るため、職員一人一人が個人目標シートを作成し、職員面談で思いや考えを確認している。個人目標シートには、自分が学びたいことなどを具体的に挙げ、目標や課題が明確になるようにしている。今回の職員自己評価からは、園が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望となるキャリアパスのわかりやすい周知について多少のばらつきがみられる。キャリアパスの内容をわかりやすく説明し、段階的なスキルアップに対する各職員の理解を深め意識を高めることで、職員のさらなる意欲向上につながることに期待したい。
3	タイトル	子ども一人一人の興味を引き出し、どのように広げていくかというプロセスを見える化していくことを期待する
	内容	園の目標として「子どもの主体性を尊重する」保育を掲げている。子ども達が夢中になって遊べる場を保育の中に作り、そこで子ども達と一緒に考え、職員自身も保育を楽しむことで、遊びの価値や意義を発信する力を身に付けられるようにしているが、いかに組織として子どもの主体性を育む保育にしていけるかが重要となっている。園として、具体的に何をすればよいのかの状態から、子ども一人一人の興味や関心を引き出し、どのように広げていくのかというプロセスを「見える化」していくことに期待する。